

「ルアンダ便り4号（2008年12月1日）」

お元気ですか。師走はしり、日本列島は冬に入り高山、北国の街では雪の便りが聞かれる頃でしょうか。

こちらは本格的雨季に入り、あたりの緑が濃くなってきました。アンゴラの雨季と言っても、処により相当の時間降るようです。しかし大抵はカンボジアあたりの雨季の雨と同様土砂降りです。一回当たりそう長続き続きませんが日に2回来ることもあります。仕事の通信土木工事にとっては大敵ですけれど。

今回はアンゴラの地方都市生活事情を報告させていただきます。

アンゴラ地方人の性向；9月末、アンゴラテレコムのカアンザノルテ州支店長トニーさんと州内で工事中の光ファイバールート工事のインスペクションをやりました。途中、レストランに立寄り昼食をとりました。昼食時の雑談でトニーさんは「君は何歳？子供は何人いるの」と工事業者の主任へたずねました。ジャンさん「27歳、独身」と答えると、同席していた現地スタッフのペドロ君は「私は子供3人だよ。シナには女はいないの？どう。アンゴラで結婚したら」。ジャンさん「上海プロビンスはアンゴラ位の広さだから、女性は一杯います。上海市の生活費は大変で結婚できないんですよ。子供ができれば教育費もかかるしねえ。「そんなに、難しいことを悩まずに結婚して子供を作れば。仲間、国がなんとかしてくれるんじゃない。イツソ、アンゴラ人と結婚してアンゴラに住めば」と言い、全員で爆笑しました。

PS：ボンディーヤ；ポルトガル語で「おはよう・こんにちわ」

写真：1. 給水車を待つ盥の花（オフィス近傍路上） 2. 給水車が来た！ 3. 郊外に延びる日干し煉瓦の住宅（ダラタンド郊外） 4. 母親とその子供達（光ケーブル建設インスペクション途中。ルカーラ郊外）

